

# キッズみんなの日記

8月号

朝から蝉の鳴き声が元気に響き、夏本番を迎えています。長いと思っていた夏休みも、あっという間に七月が終わり、残すところ一ヶ月となりました。学校の宿題は順調に進んでいますか。宿題は早めに終わらせ、心おきなく遊びに熱中したいですね。

先月は、夏休みに入る直前の出来事を題材にした日記が多くみられました。スポーツの大会、コンクール、また、林間学校など。一生懸命打ち込んだことや、心に残る思い出、頑張ったけれど結果に結びつかず悔しかったことなど、みなさんの思いがたくさん詰まっています。今月の優秀作品は中心の出来事からうまく書き広げて長文に挑戦している作品が目立ちます。物事の説明の仕方や心情の表し方、段落の強弱のつけ方が絶妙です。是非、参考にしてみてください。

夏期講習中も週一回は日記の提出を忘れずに！

## 優秀作品紹介

★初級者（一・二年生）の部★

じゅく

きょうじゅくについておべんきょうをしました。やったべんきょうはひっさんです。むずかしかったし、めんどうさいとこころがあったりしたけど楽しかったです。（小二・KY君）

初めて習った「ひっさん」の感想が子供らしい素直な言葉で表現されていますね。「むずかしい」「めんどう」と言いながらも塾での勉強を楽しんでいるところが素敵です！

テストがかえってきた

きょうテストがかえってきました。ぼくは、つしようけんめいテストをやったので、ぜんぶ百点でした。また百点をとりたいたです。（小二・MM君）



頑張りましたね！すべてのテストがどうして百点だったのかを、きちんと、「いっしょうけんめいやったから」「百点だった」というように「理由」「結果」の形で上手に表現できています。最後の文も次回の目標で上手にまとめてあります。

★★中級者（三・四年生）の部★★

うさぎ

ぼくは、うさぎを飼っています。去年の八月二十九日に飼うことにしました。名前は自分で決めました。ぼくの名前の「ひ」を取って、お母さんがぼくのことを「ちびろ」と言っていたので、ぼくは、うさぎを「ピピ」という名前にしました。

最初のころは、何もわからなかったから細かい物はかんでいました。でも、小さくかわいかったので、ぼくは「かわいいなあ。」

と言いました。

でも、今はなんでもかんでもかまなくなりまして。ぼくは、えらくなつたなあと思いました。

（小四・NC君）

お母さんがつけたC君の愛称から、さらに一字取って、うさぎの名前を自分でつけたことを説明することで、ピピへの愛情の深さを上手に表現しましたね。また、飼いはじめのころの「ピピ」と、今の「ピピ」を比較して描写し、感想を述べることでピピと過ごした時間の広がりも上手に表現しました。

カブト虫

ぼくは、カブト虫をかっています。

去年、成虫になったカブト虫が産んだたまごが、よう虫になって、サナギになって、今年の七月九日の木曜日に一匹目が産まれて土の中から出てきました。

去年より一日おそかったです。去年は一匹目がメスだったけど、今年は一匹目がオスだったのでうれしかったです。



まだ、たるの中によう虫が何匹かいるので、メスよりオスのほうがたくさん産まれるといいなと思います。

でも、家で育てるより自然で捕まえた成虫の方が、大きくて立派な角を持っているので、家で育てるのはむずかしいと思いました。

今年の夏も、りっぱなカブト虫をいっぱいとりたいたです。（小四・KD君）

去年捕ったカブトムシから、今年新たな命が産まれるまでをとても上手に紹介してくれましたね。自然のカブトムシとの比較を上手に使い、人工飼育の難しさもわかりやすく説明してあります。それぞれの段落のポリュームがとても適切で、子供らしい内容なのに、スマートさを感じさせる文章に仕上がっています。見習いたいテクニクですね！

初先発・初ホームラン

今日、ソフトボールで中央大会の予選がありまして。今日の試合は、八月一二日にやる大会の予選大会です。相手は、和名ヶ谷と大橋みどりです。一試合目は和名ヶ谷です。

ぼくは、その試合に先発しました。投げるときは、すごくきんちようしました。そして、三アウトでチェンジになった時に、心の中で（やったー。）ときけました。そのあとも、点を取られずに勝ちました。

そして、次の試合は、ぼくはホームランを打ちました。すごくうれしかったです。とちゅうまで負けていたけど、最後の最後でぎゃく転勝ちしました。これで中央大会にいけます。でも、中央大会は、五年生が学校の行事で一人もいないので、ぼくたちだけががんばりたいです。

（小四・SY君）





今日の試合の説明がとても明確で、誰が読んでもどんな試合なのか、どのチームと試合をしたのかわかりますね。試合中の心情の変化も生き生きと表現できました！最後の段落に試合の結果とその先の予定をきちんと述べ、まとまりのある文章になっています。また、タイトルも短く、印象的です。お見事！

★★★上級者(五・六年生)の部★★★

林間学園から帰ってきたー！

昨日、林間学園から帰ってきました。林間学園は、七月一日・二日・三日で行きました。

七月一日はキャンプファイヤーとオリエンテーリングをやりました。昼にオリエンテーリングをやり、夜にキャンプファイヤーをやりました。

昼のオリエンテーリングでは、道に迷う班がいました。でも、迷ったのは私の班じゃなかったのです。キャンプファイヤーは雨だったので、室内だったのですが、みんなとおどったり、歌ったりするのは楽しかったです。

二日目は、ハイキングとカレー作りをしました。ハイキングでは五キロメートルぐらいあるいたのでつきました。

カレー作りでは、私の班(四班)と三班で作りました。私は野菜を切っていたのですが、水を入れてる女子の方が、「これ、水多いよー!」と、言っているのに、男子は、「大丈夫!大丈夫!」と、言うのでそのままにしておいたそうです。私も多いと思ったのですが、何言ってもムダだからいっか、と思いきやあきらめました。それで、出来上がったのがスープカレー!という結果になってしまいました。

三日目は、帰る準備とそうじをして旅館を出て、帰りに千本松牧場と、グランディ子ども科学



館に行きました。千本松牧場でお土産を買い、ちよつと牛を見てからまた出発しました。グランディ子ども科学館では、科学を体験してきました。中でもおもしろかったのは、暗やみの部屋と斜めの部屋です。暗やみのへやでは、その名の通り暗やみの部屋を歩きました。こわかったです。斜めの部屋では、ゆかが斜めになっていて、そこを歩いたのです。なかなか前に進めませんでした。でも、楽しかったです。(小五・YSさん)

楽しかった林間学園の様子を順序よく書きましたね。カレー作りの段落では、会話を上手に使って、友達同士のやりとりを生かして表現できています。また、水っぽいカレーを「スープカレー」と表現したことで、いたずら好きの男子へのユーモアたっぷりな皮肉となっていて笑いを誘います。小学生によくありがちな男子と女子のやりとりを楽しく生き生きと表現した良いお手本です。

NHKの音楽研究発表会

今日、音楽研究発表会がありました。最初にバスに乗って市川文化会館に行きました。

九時半にステージ練習をしました。練習を覚えてくれたのはプロの先生です。

少ししてからボイストレーニングをしました。ボイストレーニングは、発声練習みたいな事をします。発声練習とは、声を出しやすくするストレッチみたいなものです。

そして、十一時半くらいにお弁当を食べました。私の大好きなからあげが入っていたのでうれしかったです。

十二時半に開演しました。大野小学校はトップバッターでした。だから、すごくドキドキしました。終わった時はすごくほっとした気持ちになりました。

これは練習で本番は八月六日です。だから、八月六日には、第一予



選、絶対に合格したいです。(小五・Yさん)

リハーサルの様子を時間ごとの場面に区切り、上手に段落に強弱をつけていますね。トップバッターだった大野小、緊張感がこちらまで伝わってきます!心情の変化も見事に表現しました。最終段落は、本番へ向けての意気込みでまとめるところも上手いですね!

●先月号でもお伝えしましたが、読書感想文を書いてみましょう。優れた文章からは多くのことを学べます。映画やテレビと違い、本は読み手の想像で同じストーリーでも、十人十色の物語へと変化します。

以前、小学生で「ハリーポッター」に夢中になっていた子がいました。確かに原作を読んでも、映画を観ても、面白いですね。しかし、和書には、それとは違った魅力があります。美しい日本語で表現された風景や、日本人なら誰もが共感できる心情に自然と引き込まれ、余韻を残すような感動があります。面白さだけ負けてはいません。そんな魅力を知って欲しくて、伊藤先生にお願いして厳選してもらった七月号と八月号の伊藤先生のおすすめ本です。是非、手に取って、読んでほしいのです。そして、みなさんと年の近い主人公の行動や心の動きを自分に重ね合わせて考える。自分にも主人公のように行動できるだろうか。自分ならどうするだろう。主人公はその時どんな思いだったのだろう。そうしたことを日記に書き留めれば、立派な感想文になります。この機会を利用して、感想文を練習しましょう!七月号のおすすめ本は、すでに梨ゼミ文庫にありますので、どんどん利用してくださいね。

伊藤先生のおすすめ本

★初級者★  
みず

一かがくのととも傑作集わくわくにんげん  
福音館書店/長谷川摂子 著/英伸三  
水とたわむれることもちろ生き生きとくらえたい写真絵本!

★★中級者★★

キツネ山の夏休み あかね書房  
富安陽子 著

108匹の伝説のキツネたちに守られている稲荷山の町。その町で過ごす夏の夏は、光と風と不思議でいっぱい!夏の輝きを描いたファンタジー。

★★★上級者★★★

時計坂の家 リブリオ出版  
高樓方子 著/千葉史子 イラスト

初恋の季節、少女はふっと大人びる。誰かを好きになることは、夢を見ることを止めること、と知るからだ。これは、その残酷な儀式野中、少女が遭遇した一夏の不思議な物語。読んだ後にもひきずるような感動を与えてくれる一冊です!